

# 〈東北・新潟の活性化応援プログラム〉 2017年助成団体活動成果レポート

助成団体

## つぴたあれいわいずみ実行委員会

岩手県下閉伊郡岩泉町

プロジェクト名

### いわいずみどんぐり学園祭

(申請時:「こどもフェスタ」)

#### ■地域の紹介

岩泉町は北上山地の東部に位置し、東方は陸中海岸に臨んでいます。面積は東京23区の1.6倍、そのうち93%を森林が占めています。林業、木材業、畜産業、漁業が盛んで、日本三大鍾乳洞の一つである龍泉洞は観光のシンボルとなっています。

#### ■地域の課題

年間17万人もの観光客が訪れているにも関わらず、町内には岩泉の食文化を伝承する体験施設、並びに旬の食材を使い郷土料理を提供する飲食店が皆無というのが現状です。核家族の世帯が多く、家庭においていかに食文化を継承していくかが課題となっています。

#### ■当団体の紹介

「つぴたあれ」とは、岩泉の方言で「(お風呂で)肩までじっくり浸かりなさい」という意味です。地元の「うれいら商店街」において、岩泉の恵み(食材・風景・手仕事)を活用した子育てイベント「こどもフェスタ」を開催し、異世代・異業種の交流の拡大や、生きがい・活躍の場の提供を図っています。



### ■背景・目的は？

2016年の台風10号豪雨災害により、道の駅が被災し、貯蔵していたどんぐりが流失しました。岩泉で受け継がれてきたどんぐりを使った商品の製造が中止、再開の見込みもたないという状況でした。プロジェクトを通じて、改めて岩泉の食文化に光をあて、意識的、かつ早急に取り組む課題であると地域の人が考える機会にするとともに、次世代に食文化を継承する仕組み作りを狙い開催しました。

### ■具体的な活動は？

いわいずみどんぐり学園祭

日時：2018年11月24日(土) 10:00～16:00

場所：うれいら商店街界限（一部を通行止めにして実施）

主催：つびたあれいわいずみ実行委員会

後援：岩泉町／岩泉町教育委員会／うれいら商店会

天候：晴れ

出店者数：13

#### ▼イベント

- ねこじゃらし文庫(岩泉)  
11:00～11:30／わらべうた／参加費無料
- NPO法人おはなしころりん(大船渡)  
13:00～13:20／ブラックパネルシアター、ペープサート、わらべうた／参加費無料
- どんぐりパンの試食
- どんぐりガールコスチューム着替え体験

#### ▼内容

うれいら商店街空店舗、店舗駐車場、古民家コミュニティスペースあっけら館、てどの蔵、雑貨店において、いわいずみどんぐり学園祭を開催。

13の出店者によるどんぐりをモチーフにした雑貨や、どんぐりを使った料理やお菓子を販売。学園祭開催前にはプレイベントとして、9/22「秋の遠足」（＝どんぐり拾い）、10/17「調理実習」（＝どんぐりのあく抜き）を行い、どんぐりを食べられるようになるまでの過程を参加者とともに学んだ。

#### ▼告知方法

- ブログ、facebook、HP、Twitter、Instagramで告知
- チラシを盛岡、宮古、久慈などのお店に配布
- 岩手県庁記者クラブ、宮古市役所秘書室にプレスリリース
- テレビ 『ニュースエコー』（IBC岩手放送）11/16放送
- 新聞 『岩手日報』11/26掲載  
『朝日新聞』（地方版）10/10掲載  
『読売新聞』（地方版）10/19掲載



岩泉産どんぐり100%のどんぐりコーヒー



子どもも楽しめる体験コーナー



岩泉の郷土料理「ひつつみ」は、特別にどんぐり入り



手作りのお菓子の販売



おはなしころりんによるお話し会



てどの蔵では、スピニングの実演も



岩手県内のクラフト作家による雑貨の販売



学園祭限定どんぐり帽子も大人気

## ■活動の成果は？

「いわいずみどんぐり学園祭」開催に至るまでに、イベントとして9月に「遠足」と称し「どんぐり拾い」を行い、10月に「調理実習」として「どんぐりのあく抜き作業」を行った。この結果、学園祭にはどんぐり食文化に関心を抱く人が、岩泉町内外から参加。どんぐりを使った新たな商品の開発に着手、販売に至った出店者がいた点は大きな成果だったと言えます。また、新聞各社、テレビにも取り上げられ、現在岩泉のどんぐり食文化が危機的な状況であることを周知することができました。

何より新たな観光資源を発掘するのではなく、岩泉で受け継がれてきた食文化を見直すという今回の取り組みは、一流シェフ、食文化伝承グループ、生産者の方々の関心を呼び、今後の活動の幅が広がると思っています。

岩泉近隣市町村で年間数多くのイベントが開催される中、「岩泉の食文化」、それも、どんぐりに特化した「いわいずみどんぐり学園祭」という初開催のイベントに関心を持ってもらうためには、徹底した情報発信が必要不可欠です。助成金を頂いたことで、ポスターデザインの打ち合わせの段階から、デザイナー、衣装デザイナー、羊毛フェルト作家、カメラマンを交え、よりクオリティの高いものを作ろうと意識の共有をすることができました。ポスター、チラシともに、大変好評で、助成金を頂かなければ、ここまでのは作り得なかったと思います。

## 団体からのコメント

岩泉のどんぐり食文化だけではなく、郷土料理や保存食を継承できる体制を視野に入れて、継続的に活動していきたいと考えています。それには、つびたあれいわいずみ実行委員会だけではなく、行政や観光協会、食文化伝承グループ等と連携していければと思っています。

課題としてあげられるのは、任意団体としてボランティアで活動しているため、仕事や家庭の事情によりイベントでのスタッフが流動的であること。また、活動資金がないため助成金の申請が通らなかった場合、思うような活動が困難である点です。今後さらに少子高齢化が進み、人手のない中、実行委員のメンバー達それぞれが仕事や、自治会の活動にとさらに多忙になると思われます。それでも、ゆるくつながりながら、自分たちの手で暮らしを楽しむ術を共有できるようイベントを開催していきたいと考えています。

